（1）　昭和47年8月10日　（毎月1回10日発行）　修学旅行新聞　（昭和41年6月17日第三種郵便物認可）（定価1カ年500円送料共）　第128号

修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8―7（幅ビル）
電話　(262) 2426・2932
振替　（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

京都府乙訓郡の小中学校

修学旅行費を補助

小学生には全額支給

中学生　実費の半額を負担

【京都】京都府乙訓郡の三か町には小学校九校、中学校三校あるが、〝教育費は公費で〟を建前とする町当局と京都中学校事務組合は、修学旅行に参加する児童・生徒全員に対して補助を行なっている。ことしも昨年度から金額を引きあげて小学生一名につき全額の三千三百円、中学生には実費の半額にあたる五千円を交付した。公費による修学旅行費の児童・生徒への補助は全国でも珍らしいケースとして各方面から注目されている。

小学校

乙訓郡には向田町（大西正一教育長）に向陽（荒木泰二校長）第二向陽（高田喜男校長）第三向陽（岡崎了吉校長）の三校、長岡町（菱田斉治郎教育長）には神足（井上守校長）長法寺（岩崎勇校長）長岡第三（松尾幸之助校長）長岡第四（早川満校長）長岡第五（木村直之校長）の五校、また大山崎町（小林政治郎教育長）には大山崎（田中理一郎校長）一校、あわせて九校九千六百八十四名の児童が在籍、修学旅行は伊勢・鳥羽方面へ一泊二日で行なっている。向田、長岡、大山崎の三町では、ことし全児童に対し、交通、宿泊、見学などの費用全額の三千三百円を支出した。これは、昭和三十八年、児童一名に全額の二千百円を支給したのがはじまりで、以後十三年間、年ごとに上積みして継続しており、現場では町当局の教育に対する姿勢を正しく評価、またPTA側からも好評を受けている。なお、引率教諭、校医、看護婦の経費も全額を町当局で負担している。また、校医には謝礼として別途三万円も計上されている。

中学校

また、中学校は乙訓（八木伊佐美校長）第二乙訓（山田馨校長）長岡（弓削輝一校長）の三校で生徒は三千八百四十名。管理者の三か町および京都市中学校事務組合では、〝せめて半額の補助を〟との校長会の希望をいれ、先ず四十四年度に長岡町が生徒一名につき五千円を計上、つづいて同年六月には中学校事務組合も同額の補助を行ない、現在では全校生徒一率に五千円が予算化されている。

旅行先きは乙訓中が富士五湖、信州、東京方面、第二乙訓は伊豆、箱根方面へ二泊三日で約九千六百円、長岡中は富士五湖、信州方面へ同じく二泊三日、約一万円の費用でこの補助は約半額にあたる。

また、引率教諭には指導費として乙訓、第二乙訓が一名につき二万円、長岡は一万三千円、付添医師の謝礼は各校とも五万円ずつとなっている。

当局の熱意にうたれる

乙訓中学校長　八木伊佐美氏の話

乙訓郡内各町当局と学校管理者の京都市中学校事務組合が〝教育費は全額公費で〟という姿勢で取り組んでおられるので、児童・生徒はたいへん幸せだと思う。そのためわれわれも大した苦労をせずに予算化してもらっているわけで、修学旅行の意義を考えると、この措置は大いに誇ってよいのではあるまいか。

修旅基準改訂の構え

高校は一泊減に

中学は現行で

〝日程延長は認めない〟

秋田県教委

【秋田】秋田県教育委員会（伊藤忠二教育長）では同県の修学旅行基準を全面的に改訂することになり、作業をすすめている。高校は一泊一日減、中学校は現行通り三泊四日だが、日程延長の〝特例〟はいっさい認めぬ方針であるところから、山間など辺地の中学校から反対の声もあがっており、決定まで今後一と波乱はまぬかれない情勢にある。

改訂の理由として県教委は①新教育課程の実施にともない、学習指導要領などに示された領域の名称が変更になった②修学旅行が年ごとに大型化している③交通機関の発達で日程や距離が短縮された④父兄の経費負担を軽くする必要がある⑥小学校では地域の実態や修学旅行の実情からみて期間を緩和してもよいと判断した⑦セミナーハウスなどを利用したホームルーム合宿などが各学校で一般化し、教育課程の一環として宿泊指導を受ける機会が修学旅行以外にもみられるようになった、などのほか、給特法の施行について明確にすることや、特殊業務手当の支給に伴ない、支給対象の範囲を明らかにすることなどの必要に迫られたためとしている。

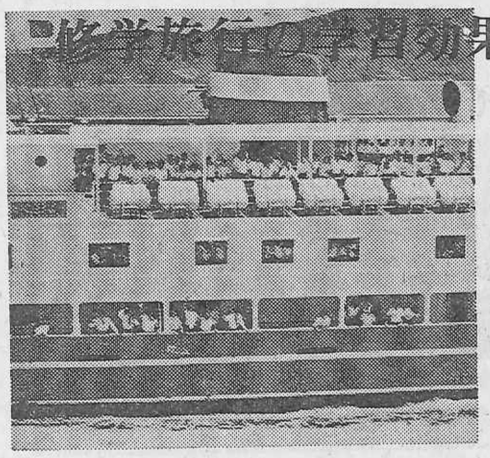
日程については高校は六泊七日から五泊六日（車船泊は二泊以内）に短縮、中学校は従来通り三泊四日（車船泊は二泊以内）、小学校は逆に日帰りから一泊二日に延長している。問題となるのは、いままで山間僻地などの学校が地教委の許可を受けて実施していた〝日程延長〟がいっさい認められなくなる点で、輸送などの関係からいっそう窮屈になりそう。

また、引率教員数については従来「少くとも二名以上とし、参加者多数の場合は生徒三十名につき一名以上の割合とする」を「三十名以内の場合は二名とし、三十名をこえる場合は三十名について一名の割合とする。ほかに引率責任者一名を加えるものとする」と改める。

注目されるのは日程短縮の高校と、〝基準通り〟で特例の認められない中学校で、高校は今まで遠く近畿、中国方面にまで行っているが、新幹線を利用するにしても目的地の変更を余儀なくされ、また、日光・東京・函館・札幌方面へ行っている中学校も輸送の関係で大幅な組換えをしなければならないわけだ。県教委の方針にたいして現場の学校側は反撥の構えをみせており、校長会などとの折衝もなお曲折が予想されるにいたった。

風紋

「ふるさとの訛なつかし、停車場の人ごみの中に、そを聴きにゆく」という啄木のうたには誰しも深い共感をもったことであろう▼方言訛音といえば地方言となまりが結びついたもので標準語に比べて劣悪な言葉という印象でうけとられるが、そのように簡単にいいきれるものでない▼標準語は、共通語ということで、いわば方言を母胎としてつくりあげた符号?のようなもの、ほんとうの民衆の生活や感情とかけ離れたものともいえる▼旅に出てその土地の人々と話をしてみると、共通語はいかに無味乾燥のことばであるか、思い知らされることが多い。関西の人々は「アカン」ということばをよくつかう。ラジオやテレビのドラマなどにもよく出るので全国的に耳なれたことばとなった▼八月一日の阪神大洋戦での村山投手の敗戦ぶりを、新聞は「五〇球でもうアカン」と大見出しにかいている。また、ある会合で友人に酒をすすめたところ「わしゃ、もうアカンニャ」といって、手をふったが、その友は間もなく亡くなった▼このアカンということばは、実に多義に使用しているが、この一語がどの場合もぴたりと作用して、関西語のなりたちを支えているように思う▼このことばについて、以前に安田徳太郎氏が「万葉集の謎」という本の中で書いたことがある。その説によると、この原語は、レプチャ語の「a-kan」だろうということで「じぶんの考えと一致しない」「正反対」という意味であるという▼レプチャ語をつかうヒマラヤ族がマレー半島を南下し、黒潮にのって日本にたどりついたのが原日本人だという▼そうなるとこのことばこそ数千年も、もっと悠久の昔から民衆の哀歓とともに生きつづけてきた生命語であるということになる。後世の宮廷語や伝来語などとちがう、ほんとうの民衆のことばであったわけだ▼旅に出たらそういうたくさんのことばを、心に深くききたいものである。



果向上のために

全船冷暖房完備の修学旅行専用船

わかば丸・ふたば丸

旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！

関西汽船

●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

充実した修学旅行

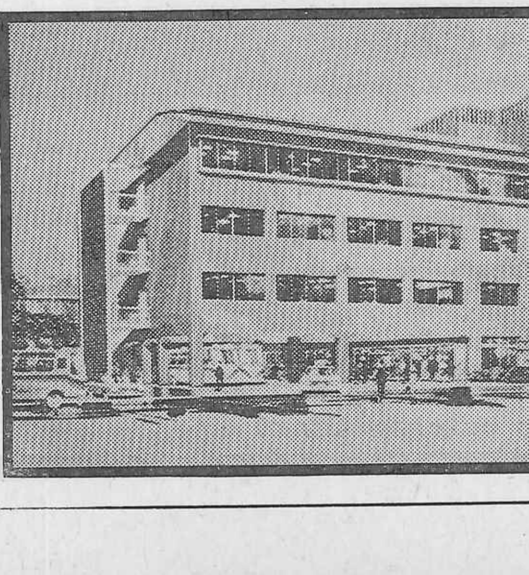
ツーリストをお役立てください

ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として“修学旅行映画”シリーズを製作しております。

●修学旅行映画シリーズ
京都の庭園　富士箱根　日光　大和の国なか
大和の塔　火とみどりの国　瀬戸内海
みちのく　大和の道　大和の石　京都の川
（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25～40分です）

電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」
近畿日本ツーリスト

47年3月1日オープン　空も澄む近江路の旅



〈収容〉800名様
〈食堂〉550名席
〈浴場〉1時に150名
〈設備〉全館冷暖房
〈防災〉諸施設完備

《予約受付中》

修学旅行の専用ホテル

大津市におの浜3丁目1－4

びわ湖ツーリスト・ホテル

電話　大津(0775)24－2321(代表)
大津(0775)23－0408(直通)

大きな成果あげて

研修旅行終わる

アンケート　"実りある旅だった"

全修協企画、都道府県教委・教互・教弘・学生協・校長会、教職員組合などの後援による第十六回本年度教職員研修旅行は、七月二十二日の「北海道一周Bコース」近畿第一団、関東第一回を皮切りに全二十コースで実施、八月二十五日到着の「東京私学・南近江路と若狭・越前の探究」を最後に終了する。

六千名に達する参加者は各地で思い思いの研修をおこない、多くの成果を得た。全修協では今後の参考に資するため参加者からアンケートを求めたが、そのなかから感想をひろってみると――。

最良の旅だった

【北海道一周Aコース】二十年間、見たいと思っていた美幌峠、原生花園、マリモなど、実にうまいガイドの案内で心ゆくまで鑑賞できて良い旅行でした。心から感激しています。私は旅のよさというものをしみじみ感じたしだいです。旅好きで年二回ぐらい大きな旅行をしているのですが、こんどがいちばんすばらしかった。旅先きで感じたいろいろな経験を今後に生かしたいと思います。ほんとうにありがとうございました。（栃木・小学校教諭・男・四十九歳）

さいはての国へ

【北海道一周Bコース】北海道へ一度旅行したいと長いあいだ念願していたところ、全修協の研修旅行に参加させていただき、ようやく念願がかないました。計画も案内もよく、無理のない旅で、しかも天候に恵まれました。地の果て能取まで行き、オホーツク海を眺めた感慨や、雄大な山々に接したうれしさなど忘れることができません。帰途、ジェット機で羽田へ――これも楽しい思い出です。どうもありがとうございます。（東京・小学校教諭・男・六十一歳）

アイヌの踊りを見る研修旅行団（白老で全修協広報部うつす）

斉藤委員長が再選

兵庫県中学校修旅委

【大阪】兵庫県中学校修学旅行委員会（斉藤武人委員長）は七月五日午前十一時から神戸市内の三菱銀行神戸支店会議室に斉藤委員長ほか委員三十二名、小西事務局長が出席して開催。近修委の運動経過報告、四十六年度決算および四十七年度予算審議のあと本年度の役員を次の通り決定した。

▽委員長＝斉藤武人（西宮市上ケ原中学校長）▽副委員長＝大沢昇治（三田市八景中学校長）井上彦四郎（姫路市広畑中学校長）＝敬称略。

修旅委ひらく

＝近畿二府四県＝

久保田委員長を再選

【大阪】近畿二府四県修学旅行委員会（久保田八郎委員長）では七月十日午後二時から全修協大阪事務所で委員会を開いた。久保田委員長のほか兵庫県中学校修学旅行委員長・斉藤武人（西宮市上ケ原中学校長）奈良県中学校修学旅行委員長・中村勝海（大和高田市片塩中学校長）和歌山県中学校修学旅行委員長代理・永栄啓利（那賀郡粉河中学校長）氏らのほか小西惣二郎委員会事務局長（全修協大阪事務所長）が出席した。

四十六年度の会計決算報告と四十七年度予算案を審議決定し、四十七年度の委員長には久保田八郎氏が再選された。今後の運動方針として①新幹線と信州路線のピストン乗車に対し新幹線特急料金の五割引きを強力に陳情する②新幹線の往復乗車に対する特急料金の全免を目指して運動を続行することなどを決めた。

あるくみるきく

ささやかな冊子の名前です。書店にも出さず、これといった広告もしてきませんでした。でも，熱心な読者に支えられて，もう５年も続いて発行しています。旅をする人、土地に住む人の目を通して、その土地のあるべき姿を正確にみつめていきたい――小さな冊子にそんな大きな夢を託しています。

●年間講読料 700円(〒共)近畿日本ツーリストの各営業所か、直接当研究所宛に現金または切手でお申込み下さい。
●見本をお送りします。

日本観光文化研究所
東京都千代田区神田松永町11－2　近畿日本ツーリスト内　TEL (03)255-7111(内)274

関修委の運動と目標

（1）

関東5県が大同団結

＝苦労かさねて"わかくさ号"設定へ

高田福松

一、修学旅行の輸送について

戦後、物資の欠乏から立ち上った日本は、平和的、民主的教育の立場から、あらゆる面が改善されてきている。諸外国には、あまりその例をみない修学旅行的行事は日本の教育界に戦前から存在したものである。昭和三十年ころから宿泊を伴なう行事として林間学校・臨海学校・修学旅行などの行事は、程度の差こそあれ、実施されつづけられたといえる。

昭和三十五年ころから、関西方面へ旅行地をえらぶ学校が増加し出したが、この実施に光明をもたしたものは、関東からの"ひので号"関西から"きぼう号"ついで"わかくさ号""わかば号"など団体集約列車として急行料金免除の要領により設定されたことである。

けれども、その経過において東京都内と神奈川県内の中学校は、埼玉、群馬＝栃木、茨城、千葉五県にくらべてその実施も早く、また、交通の便もよく、われわれ五県は"ひので号"の空いている時期に便乗をお願いするようなことで、その不便と不公平はまぬかれ得なかったといえよう。

★……★

以上のことは関東五県を団結させ、各県教育長と中学校長会長と協議して、時間的にも便利で、乗りつぎもさらに足をのばしてくれる列車を設定する必要にせまられ、品川発午前十時ころ、栃木県は小金井発など便利な"わかくさ号"が設定され、昭和三十九年四月五日、第一陣が出発となったのである。それいらい、ことしの六月七日まで満九年にわたり、五十六万七千二百六十九人の生徒を遅滞なく、また、大事故もなく完了したことは修学旅行の歴史に長く残ることであろう。それにしてもも、この列車設定に当って、昭和三十六年から同三十九年まで満三年の協議を通し、実施までもっていった先輩諸兄の苦労たるや、たいへんなものであったろう。

以上の団体集約列車の利点としては、①急行料金が免除されていること②他の乗客との混乗ではないので自他ともに迷惑がかからないこと、である。

また欠点としては二泊三日というものの、最終日は車中泊で朝五時に到着するので三泊三日ということになり、県の基準にも違反し、車中泊は生徒や引率教師の心身的疲労は絶大なものがあり、いつ問題が起きるか安心できぬ状態であったろう。

つぎに期せずして新幹線の安全輸送が確認されるに当って、なんとか中学校にも利用できぬかという希望が持たれはじめた。昭和四十四年から、その希望の有無につき調査をはじめたところ、当初、六五％の希望があることが判ったが、ちょうどその年は大阪で万国博が開催され、特別列車の獲得はきわめて困難であった。

★……★

なお、今までは急行料金が免除されていたのが、いくら速いとはいえ、京都往復で三千八百円、さらにバス代の三割上昇などがからめば、六千円以上の値上げは耐えがたいものであった。これに対して関西、関東、東海地区の修学旅行委員会は、全日中や全修協の協力で、運輸大臣、文部大臣、国鉄総裁などに運動、陳情をつづけ、特急料金の免除にまで持っていこうと努力したが、全国的にみて、まだ一部生徒の利用にとどまっているので、五割引きの成果しか得ていない。

この作業は昭和四十五年度内に調査、割付けなどを終わり、四十六年三月十六日をトップとしてここに二か年を終了した。本年度の新幹線「ひかり号」は関東で三百七十二校七万五千七十五人、このうち、埼玉県は二百十九校四万四千百六十八人であった。また、"わかくさ号"も、栃木県では九十七校一万七千二百五十一人（埼玉県は五校千六百二十一人）が二十日間利用し、いまだ忘れがたい存在ではあるが、時代の流れとともに消え去る運命となった。

関東地区の四十八年度の新幹線は四百九十九校十万一千五百三十五人、埼玉県では二百三十一校四万八千九百一人で八五％の参加率となっている。往復"ひかり号"で、東京発八時十五分、東京着十六時二十分だが、出発時刻についてはだいたい四分の一くらいの学校は十時ころを希望している。栃木県の二万人、茨城、千葉両県の便宜を考えれば十時ごろの一本を設定すれば必ず三万人くらいの増加も見込まれよう。　＝つづく＝

（関東地区中学校修学旅行委員会運営委員長・埼玉県中学校修学旅行委員長・幸手中学校長）

東京コマ旅行会館は
第８回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、８階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木１丁目７番地
TEL (03)585－1046(代表)

東京　コマ旅行会館

若い心を大きく広げる

豪華観光船　ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）

見ているだけで、心が大きく広がる海――
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船　ふじ・にほん丸が、
生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。
●科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
●一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
●皆さまのスケジュールにあわせて就航。
●学習講議用ＴＶシステムも完備。
●一般乗客との混乗はありません。

●お問い合わせは●
Ⓐ 大島運輸株式会社　東京支店　東京都中央区日本橋通1の6 浅野ビル ☎(03)273－8911

豪華フェリーで思い出の修学旅行に！

予約受付中

●船舶概要　旅客　594人
設備　冷暖房完備、レストラン、ラウンジ、ゲームコーナー、売店、浴室、公衆電話、ＶＴＲ等

48年３月より就航
新門司　瀬戸内航路14時間　大阪（南港）
黒潮航路20時間　四日市　名古屋
就航中

名門カーフェリー
本社　京都市中京区新町通四条上ル　☎075(221)7747～8

名古屋事務所 ☎052(931)0481～3　四日市事務所 ☎0593(52)5091・(53)5356　新門司港事務所 ☎093(481)1780～7　小倉営業所 ☎098(551)0762・0793　東京事務所 ☎03(212)1546～7　川崎営業所 ☎044(32)3726